

小さな天国 「little heaven」

マルコ4、26-34

今日の福音書には2つのたとえ話があります。ひとりで「育つ種」と「からし種」です。これらのたとえ話は、神の国がどのようにになっていくのかを指し示しています。

つまり、神の国がどのように成長していくのか。

イエス様が「種がひとりでに芽を出す」と言われたとき、イエス様のメッセージは明確です。神の国は、たとえそれが私たちの協力を必要とするものであっても、何よりもまず、神からの恵みであり、**贈り物**なのです。もっと言えば、神の国は、たとえ私たちの協力が必要であっても、何よりもまず神からの恵みと贈り物であり、人間の努力の産物ではありません。

もちろん、私たちが神からの恵みを期待してただ受動的に生きることを勧めているわけではありません。

私たちは、神の恵みに協力するのです。そうすれば、神はこの世界をすでに **「小さな天国 (little heaven)」**にするために、私たちの中で、また私たちを通して働いてくださるのです。

今日のたとえ話は、キリストの教えと説教の中心である神の国が徐々に成長していくことを語っています。私たちが神の御心を実行すれば、それはすでに神の国の一部となります。

では、私たちの中で神の国が成長するために、私たちはどのように協力すればいいのでしょうか？

たくさん方法があります。互いに尊敬し合うこと、すべての人、特に貧しい人たちと連帯すること、神と互いに忠誠を尽くすこと、その他多くのことが考えられますね。

さて、神の国は、特に私たち自身の中で、すでに成長し始めていると言えるでしょうか。私たちは、愛、思いやり、許し、和解を互いに実践しているでしょうか。神の前で自分自身を受け入れることができるでしょうか？現代のキリストの弟子として、他の人の信仰の成長を助けていますか？もし私たちの答えが[はい、Yes]であれば、私たちは神の国から遠く離れているわけではありません。神はすでに私たちの近くにおられます。

